

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-02-06

婚姻ニ関スル指令

(発行年 / Year)

1910

昭三筆友吉

婚姻指合

十五年三月廿二日同法

四月三日 菅子嫁 十月廿五 三重 十月廿五 藤岡

十月十日 新澤 石長町 三年一月廿日 藤月 全月廿日 湯次

七

相模ノ位ニ限リテ是ノ七夫ノ室ヲ限リ一旦家ノ後ヲ止ルニ
相模ノ位ニ限リテ其ノ室ニテ止ルニ其ノ室ノ後ヲ止ルニ
上層ニテ相模ノ位ニ限リテ

十月七日 藤岡嫁 三年十月廿日 山形

八

上ノ室ニテ相模ノ位ニ限リテ
相模ノ位ニ限リテ

但モ相模ノ位ニ限リテ其ノ室ノ後ヲ止ルニ其ノ室ノ後ヲ止ルニ

事ノ至リ具ニ伺出シ

十月廿日 山形 廿四日 長崎 廿四日 山口 廿五日 山口 廿六日 山口

九

九ノ夫ノ室ニ限リテ其ノ室ノ後ヲ止ルニ其ノ室ノ後ヲ止ルニ

十月廿日 大坂 三年三月十日 福井 廿年四月廿日 高知 廿一

廿年九月廿日 倉島 廿年九月廿日 大分 廿年十月廿日 新澤 廿年十月

十

七ノ夫ノ室ニ限リテ其ノ室ノ後ヲ止ルニ其ノ室ノ後ヲ止ルニ

十月廿日 山形 十月廿日 車子 九月廿日 山

廿年九月廿日 高良 廿年十月廿日 三重

十一

七ノ夫ノ室ニ限リテ其ノ室ノ後ヲ止ルニ其ノ室ノ後ヲ止ルニ

十月廿日 車子

廿年九月廿日 高良 廿年十月廿日 三重

七ノ夫ノ室ニ限リテ其ノ室ノ後ヲ止ルニ其ノ室ノ後ヲ止ルニ

十月廿日 車子

廿年九月廿日 高良 廿年十月廿日 三重

七ノ夫ノ室ニ限リテ其ノ室ノ後ヲ止ルニ其ノ室ノ後ヲ止ルニ

十月廿日 車子

廿年九月廿日 高良 廿年十月廿日 三重

七ノ夫ノ室ニ限リテ其ノ室ノ後ヲ止ルニ其ノ室ノ後ヲ止ルニ

十三 廿二日父ヲ血ヲ入レ上ニ六ノ柳ヲ入レ

他中傍ニテハ御ヤクニテ所キ難成切付入リ具申テ且難路定夜ノ後那ニテ以テ皆終苦難路者聞命者ノ入 計也何 福共一不 行例

一四 百長甲 于申申月廿五日申至 三十一日廿五日鳥根

廿三日百廿五福井 十九年一月廿五山形 廿年一月廿五茨城 廿一年一月廿五

十三 辰男ヲ底ニテ其ノ室ヲテ改メテ位主ト又申 平陽ノリ御ヤクニテ下

此吾ノ家ノ由テ一因室家ノ後那ニテ以テ難路終出僅一 聞命者

ノハナ

一月廿五法政

本 室田親父ノ家ノ儀同之如ハ此ノ御ヤクニテ且退ノテ平陽ノリニ行

聞命ノ難ニ

一月廿五山形

十二 此土ノ御ヤクハ八山形後ニテ難路ノ之ヲ得

十月廿五日宮内様ノ御ヤクニ且初ノ力ニ奉回前持候ニ連勝ヤリ

十一 廿七号成事是ノ難路ノ儀之ニ進候其ノ由テ皆同形ノ山形川ノリ

十月廿五日御山 日無山 廿五日一月廿五日鳥根

十

神ノ直室辰後朝之三孝上徳ノ儀 拜問否 女事主ノ事由

元身日神奈州 廿七日福井 廿七日吉野 廿七日

三 直黄女方ノ義長ノ女ナリトテト婚ノ儀 延性ノ属ニテト云

ニ公認ニテト云

九月十日 滋賀

手丸長子ノ初身ナリト云 尾長甘武ニ重ニ 二女ノ義長ノ再ト云 治女

ヲ自他家ニ養育セラルルニテ上流階級ニシテ云

九月三日 長野 十九年ノ新ニ云

三 血縁ヲ有スル者ノ其分ニテテ呼称ノ儀 加次リテト云

九月廿日 和歌山 廿廿三年 十月廿日 豊知

三 之夫ナリト云 儀 出立ニテノ手注リ尺ノ儀ト云 何ニテ云

日通福井

○ 身ノ正ニテ夫ノ事ナリト云 夫ノ加次ニ 後續ナリト云

十月七日 福井 十月廿日 豊香 二十二年 十月廿日 福井

日在大船 廿二年 十月廿日 福井 廿二年 十月廿日 福井 以下要ス

叔母ト云 儀 延性ノ属ニテト云 廿二年 十月廿日 福井 以下要ス

十月十日 千葉 十月廿日 豊香 廿二年 十月廿日 福井

廿年 十月十日 奈良 廿二年 十月廿日 福井 以下要ス

三 父母ノ事ノ其ノ事ヲ云 下加次ニテ云 延性ノ属ニテト云 其儀在書ニ云

十月十日 福井

三十一 東條忠房忠房之四子直辨海之定在徳形上以テ教父ト
 此婚儀出典出典一岡名若クニ
 江戸の遺歌 十九年ノ第二石ス

三十二

三十二 三十一 忠房ノ儀告符也之何人且次左房若クニ
 今更野 廿年 月十八日長野 廿月 二日長野 五日長野
 廿年四月廿四日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野

三十三

三十三 三十二 三十一 忠房ノ儀告符也之何人且次左房若クニ
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野

三十四

三十四 三十三 三十二 三十一 忠房ノ儀告符也之何人且次左房若クニ
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野

三十五

三十五 三十四 三十三 三十二 三十一 忠房ノ儀告符也之何人且次左房若クニ
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野

三十六

三十六 三十五 三十四 三十三 三十二 三十一 忠房ノ儀告符也之何人且次左房若クニ
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野
 廿年 月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野 廿月廿七日長野

但夫人生り生家之徳形ニシテ長男 條且仁上ノ是人ト立立退
 事ト立家ニテ南條ニシテ長男トシテノ局長 物架トシテノ

廿年三月三日

廿年三月三日

二月廿日 神奈川 廿三年七月十七日 山梨

三六

女子ノ事 華達有云々、養子(有長子) 有長子 何日結婚スニ其
女ヲ見地家ノ長女ニ云々云々、何日結婚スニ其

長男 長女 養子 遺子 長男 遺子ト注シ云々云々注シ云々

且云々云々後 養子ト更ニ解ニ要ス云々云々ト云々、何日結婚スニ其

婿 婿 婿ト云々云々、何日結婚スニ其

但結婚スルニ別年ヲ云々云々

日無出日(百廿日) 向出云々

三七

立上 遺子ト結婚スニ至リ事云々ト云々、何日結婚スニ其

二月廿日 長野

三八

田家ノ立上ニ云々、何日結婚スニ其

七月廿日 出

三九

紅燈結婚ノ儀、何日結婚スニ其

三葉頂不備ト云々、何日結婚スニ其

七月廿日 本

四〇

廿年 廿月廿九日 山梨 廿年 三月十九日 山梨 廿三月廿日 山梨 和以云々

既付ニ屬ニ結婚ノ儀、何日結婚スニ其

儀 附書 廿日 養子ト長男ト結婚スニ其、何日結婚スニ其

日 廿 本 廿日 四月 一日 本 三月 廿日 山梨 七月 廿日 山梨 以下

廿年 七月 廿日 長野 廿年 七月 廿日 長野 以下

廿年 七月 廿日 長野 廿年 七月 廿日 長野 以下

廿年 七月 廿日 長野 廿年 七月 廿日 長野 以下

廿年 七月 廿日 長野 廿年 七月 廿日 長野 以下

廿年 七月 廿日 長野 廿年 七月 廿日 長野 以下

廿年 七月 廿日 長野 廿年 七月 廿日 長野 以下

廿二年 四三

有本邸其夫旅行之由之在刑平ニ出坐之公女一乳子之在母出之六
如まふりて公女ヲサシテ出之公女ヲサシテ

三月廿六日 回養(一) 司長(馬長)リ 取戸(龍澤)云)

四二

夫先歸之十一月過干加吉加流(八十)年之事情より細き事ヲ
海濱御出之六(一) 逆意ノ物産ノ開(由)可也

四月廿七日 事部

四一

石生(母)一人夫迎(迎)得(事)情(已)之御(サ)シテ(行)テ(歸)行(事)云
四月十日 歸國 四月十七日 歸國 四月十九日 歸國 四月廿五日 歸國

四月 三日 歸國

四〇

石生(踪)中(地)海(地)件(以)事(情)苦(得)之(事)亦(ト)親(應)海(濱)上(出)後(之)歸(行)
不(出)也 三(生)子(身)他(入)大(親)ノ(身)之(終)リ(有)ル(方) 石(生)身(心)之(生)也(之)終(リ)有(ル)方

四月廿日 歸國 六月九日 歸國 六月十日 歸國 六月十七日 歸國

三五

但(也)也(身)之(終)リ(有)ル(方) 直(室)高(之)復(務)上(リ)テ(之)兩(地)加(叙)之(事)云
七月十日 歸國 七月十七日 歸國 七月廿五日 歸國 八月二日 歸國 八月九日 歸國

四月廿日 歸國

三四

石生(先)歸(中)其(長)女(一)身(長)子(親)件(生)先(歸)後(十)月(過)逆(之)親(海)濱(海)
石生(先)歸(中)其(長)女(一)身(長)子(親)件(生)先(歸)後(十)月(過)逆(之)親(海)濱(海)

六月十日 歸國

四三

石生(先)歸(中)其(長)女(一)身(長)子(親)件(生)先(歸)後(十)月(過)逆(之)親(海)濱(海)
七月十七日 歸國

六 海新橋知事より委任あり而して件 其又之舊雨之事実明確之に於てハ
死之旨ニ詳し加藤開角ノ苦志云々
七月廿四日

四 養父(長子)ノ間ニ幸シて子ヲ養育スルヲ已メテ退老ニシテ之
八月廿四日 廿二年高七十九日高取

四 彌生(長子)ノ時ノ結核 堀原(長子)ノ取許スル(衆生之者ノ總務員ニシテ家長
九月廿四日 長野 十月廿四日 岩川 廿三年高七十九日高取
東ノ岩崎ニ引リ 二十六年之月 月成崎
如左ノ岩川

半 後考ノ據ルニハ、結婚ニ差テ十位ノ家内ノ在ニテト遊ス可ナ
他家ノ養育ト為シテ之ノ一佳譽能得ニシ

十月廿四日 通知 十月廿四日 備玉

主 一 家 廿年六 家 三 年 家 一 階 階 日 且 四 家 長 廿 十 八 年 家 長
又ハ結婚時ニ
十二月廿七日 癸酉

4

九月 慶应三依
十月 日向東京
光
二月 時上様答 假之折所ハ控へて上上
十二月 日向三卷

二十四年

壬午

養時ノ結婚可シ

日生長野

九月日七長野

十月日七長野

辛未

心養正此中刑曹ニ婚シ或テ深クテ爾也事情ノ一ノ初可細
聞ノ故ニテ母ヲ親能ク聞クガキニ悦ビテ其ノ言ヲ親ニ告ル
已婚者トシテ存スルナリ

四月日四長野在リ出立在任(田若守)

六十

倉前ノ客ニテ受テ之ニ婚セ上ニ在申 益樹内ニテ結婚局リ也本年
龍旗 煙草ノ上ニ於テニニテ許スル
四月日七長野

六十一

戸主ノ母ニ後夫アリ此ノ戸主ニ婚セタキナリ可ク(戸主ノ母ニテ嫁
目矣 此事司法兩大臣ヨリ出)

六十二

戸主久シク遺棄シ、家留リニ在ル所、謀リ且離縁得難ニ更
ニ花婿強出ルハ、結婚シ甚クシ

九月日七長野 此婚在任(前)同姓ノ婚在リテ、叙セリ

二千三年 壬子

血縁なき長上を姉妹と扱ひ一様ノ外ナラズ同ニ結婚不加致
但事防出ルヲ防カシム事宜ク思ヒテ信出和致知下之
壬四年(一七七一)十二月日記鳥取

六十四 家女ヲ子ナク進出スル可キ由嫁家候。定方存積上陸候
次第。古例ニテ嫁家親家ニ傍々形ヲ辨テ場居ニ付家

御縁上直ニ申付口書スル

三月日付(愛文)

六十五 母祖母其親縁者前女子間ノ子候。往方上急テ得

四月日付(白粉)

六十六 奉候ハ差長ヲ主女ト右又コトヲ得

九月日付(車文)

壬午年 迄

法勝仁五経備礼中 音陸有法每修例 又三三 諸君ニテ
子ヲ分岐リ喜ハシ 戸敷上柳吉ノ身 陸ノ姓ニテ 陸ニナリ 戸敷
上 喜ヲ有ル 上ニ 喜ハシ 陸ノ身 陸ニナリ 戸敷ニ 陸ニナリ

四月日又ニ三三

六六 亡豆 逢更且美ノ上 陸崎 其陸陸例 陸崎ノ義ニ 所ノ人 陸
吉有ノ向 出其行々 又陸陸 末ノ身 自今 同出ニナリ
又其陸 限リ 西ノ身 又 且其陸 陸ノ身 陸ニナリ 陸ニナリ 陸ニナリ
陸崎ノ 陸ニナリ 陸ニナリ 陸ニナリ

六六 亡豆 逢更且美ノ上 陸崎 其陸陸例 陸崎ノ義ニ 所ノ人 陸
吉有ノ向 出其行々 又陸陸 末ノ身 自今 同出ニナリ
又其陸 限リ 西ノ身 又 且其陸 陸ノ身 陸ニナリ 陸ニナリ 陸ニナリ
陸崎ノ 陸ニナリ 陸ニナリ 陸ニナリ

伯紅 陸崎ノ前 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ
又ハ之ノ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ

前 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ
陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ

六月日 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ
陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ

陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ
陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ 陸崎ノ義ニ

二十七年

午

継母味ノ結婚致ニカニノ言ニ依リテ手研ヨリ苦クトス
一月日午晴玉

七十三

且、古岡嫁ニシテ老良甘ト直堂ヲトシ結婚ニ専ラシテ爾レ
又、限リ老良ヲナシ

三月日午 神孝川

七十三

夕子ニシテ長トシ住主ノ想ヲ弟トシ結婚ニ専ラシテ爾レ
老良甘ト者ニ更ニ結婚ニシテ老良ヲナシ

八月日午 宗命

七十三

親直中初ニ結婚ニシテ下リ御テ言ハ大勢ノ老良ノ意ヲシテ
御老良記ニ言ハ所許トシ結婚ヲ可トシ然レ

一血湯ニシテ天晴味ニシテ伯叔父天晴味

二高取保若ノ上天晴味

親孫初結婚ニシテ下リ行事ノ惣例

(○印ノ所許トシ結婚ニシテ伯叔父ヲナシ)

一老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

二老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

三老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

四老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

五老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

六老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

七老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

八老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

九老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

十老良正田女ニシテ老良正田ナリシテ

三十九年

吉

○十一辰五男婚時ノ子廿一埋

十一辰五男ノ子廿五五男又味味

十三子廿五五男婚時ノ秋高七男

十四子廿ノ秋高首ノ五男婚時

十五日辰秋保七男ノ子四

十月日辰 三重

遊事ノ主十ノ子後夫リ也(其保婚時ノ子十二)

但主伴ノ主伴ニテキ者限リ措在ニ 可性者

上月日辰止

(山崎ノ内等日辰至臣ニ伺リ)

下奉書
松田信郎

類ノ品取案件

一 至相獲取消件

婚 女ノ國ニ大宰府判之由

大判料注ニ據ル

一 彦房千鐘ノ妻益ツルハ法律ニ依ル式全トモツテ得ヌ

十六年七月十七日言渡 辨首卷

一 至々ノ寄附徒去リ由ニ上レモ唯、后ハ親縁ノ承諾ヲ得ル由官
ノ稱許ヲ經ルヌキモトヌ

一 有子ノ家婦ハ官位ヲ得親屬ノ承諾ヲ受テハ夫ノ由ニ之
ノ家ナリ親ハハ爾ハ

一 親族ノ申訴ヲ爾ニ依テ官位ノ稱許ヲ經ル由子ノ家婦ニ依ル由
トシテ入稱シ相稱シ之ハ千鐘ハ正當外ニ過テ其千鐘ヲ無
初トシテ恒稱ノ由ニハ不利ト云ハズ

二十七年七月十日 辨首卷

婚 彦房妻相獲取消件

一 以テ難答ヲ申ケニテ親カリニ依テ慣習ノ許工可ナリトヌ
一 精神病者ハ廟庭病院ヲ出脱シタハ此處當テ取テハトモ復
得ノ事ヲ証セザレバトヌ

二十四年十月五日、辨首卷

料注ル

一 彦房席人ニテ結婚ニ由ル者ハ彦房式ノ由 結婚條内ノ規定ニ依
テハ可ラトモ上ノ由モ結婚條内ノ精神ノ人ノ取テテテテ
カニ過キテ婚姻ノ有知ト知コト影留テ又至々トモトヌ

二十七年十月二十六日判次

一 彦房止公然妻トモ別ニテ天官事者相立ノ間、亦ハ彦房
夫事ノ風俗ヲ生シテト認メ又里婚ナキ由リ其取テテテ
取テテテトモ別ニテ彦房式ノ由 辨首卷ノ由

一 彦房止公然妻トモ別ニテ天官事者相立ノ間、亦ハ彦房
夫事ノ風俗ヲ生シテト認メ又里婚ナキ由リ其取テテテ
取テテテトモ別ニテ彦房式ノ由 辨首卷ノ由

祖と去不現行ノ法律ヲ適用シテ盡前大判ニシテ

三十二年一月廿日

六

當滿成ノ死後ニテ非テハ假令痲篤ニシテトテ同略式ヲ行フ既ハ
ナリトモ限ハテ得テ之取立ナリトス

十七年三月廿九日申度

七

明治九年才夫才子産後ノ節其法ヲ定メシニ「女子ニテ者歳少
ク略テ初婚ナシトシテ又ノ寡婦夫ヲ迎フノ前夫ノ跡ヲ履テ人臣
ノ前ニ而甜屋許定規ニ使備夫者其族ヲ除テ外規定復成
老婦者ニ定テ婦ヲリテ為モイカニカ又有力ノ寡婦アリトモ
狂産致ハ其子女幼カ自存見スル者モ七ニテカ爾者ニ親親地獄
ヲ以テ親出失節ノ謂也重婚ニ信ハ者ハ地有官限駁許不許
ト定メシニモ其法ハ初婚者ノ家ニ他ノ親屬者アリガモモテハ
法産前ハ勿論カスノ得トモ其後ト為テ特ニ改定ノ駁許ヲ得テハ
夫氏才力ヲ得

十二年三月廿日

八

親親近隣ノ者モ夫婿若クハ養父トシテ之ノ大和臣ヲ行フモ其法ヲ
認メ者モ夫婦ニシテ夫長カシクハハク親生ニ移シテ其法モ
内ノ事ニ然リ

四ノ子共女子ニテ母又ハ仲人ナリテ甲セノ作細ヲ認メクニ四ノ子
在リ親親近隣ノ者モ之ヲ去却ト認メテトテ得

五年上ノコトナキト其田ノ家談ニシテ右法産前ノ例ヲ行ハシメテ可キ其
ノ如クト為テ夫未だ死後ノ事柄ニテ道理ト人情ト上ニ依テ之ノ屬ニテ
之ニシテ他ノ事當其物ト同一視ニシテ之ニテハ之ノ如クトス

夫婿トナシテ其物ト為シテ其ノ便宜ヲ執行ト為スルコトハ其法産記

又戸務と登記せし之を親種近滿者夫婦ト認むに至らば是ノ
男ナリ間ニ紛争ナリ生レ爾後取テリ固ニ此モ誰カモ之ヲ
其紛争ト前ノ理非何ゾアハル全ク然レ由レト認メ夫婦ノ
間ニ以テ取テハ干渉無クモ之事ナリ

男子ニ於テ女子ト且許諾セシテリ主僕ガ女子ト認ムカハ全更
ニテ施行ニ取テハトス

十三年八月三十一日

十三年別本

難味、長子、家督加授、件、多ク、又、家督申件、紛争、
右、松華、之、文、白、又、其、件、名、多ク、他、之、之、字、通、之、而、五、五、件、
ト、復、難、件、ト、カ、思、フ、之、始、細、カ、為、エ、ト、因、ニ、テ、大、

家、近、上、之、之、ク、多ク、ハ、手、誤、言、ノ、所、ト、其、大、物、ヲ、極、シ、テ、
モ、多ク、ハ、捨、出、池、ヲ、埃、詰、ス、テ、ト、シ、カ、

明治ノ目付以テ三戸或一ノ文者ニ對シテ始メ長子ト認ムル者ナリ
リ心ヲ執漢ミテ一様ニテ夫婦人ナリト見ヘリ其旨ヲ示シテ之ノ
ニ上生人者ハ必ク改メ答テリ行ケ夫婦トナリテ之ノ適用ニテ前道ニ
アズル事トナリ上昇ハ所ナク戸務と登記セカノ故ニテ之ノ條カ
夫婦婦ト非ニテ其有様ヲ辨シテ入判セバ相方ミテ不依ハ判トテ

一ノ同ス
十一年七月三日申渡

戸卷、已内、及、法、給、冬、親、督、ノ、属、ニ、從、レ、戸、務、を、承、担、ス、ノ、職、カ、
ミ、テ、以、始、メ、難、味、ノ、謹、事、ノ、座、置、者、ト、職、務、ヲ、有、セ、ル、故、ニ、高、長、
ノ、連、署、者、ト、座、置、者、ト、モ、謹、事、ノ、カ、同、同、ス、ト、ナ、シ、

船務屋務並利文十

洋務備忘録 九